

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 POCCO音の泉こうふ			
○保護者評価実施期間	2024年11月7日		～	2024年11月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2024年11月9日		～	2024年11月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年11月29日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用する子どもたちが楽しく参加できる 独自の音楽活動をメインとしていること	見通しの持てる決まったプログラム枠の中で、季節や一人一人の特性や課題に寄り添った内容を考えている。 静(着席して取り組む)と動(体を動かす)の活動をプログラムの中でバランスよく取り入れている。	OT等専門職の意見も取り入れながら活動の見直し、更新をし、療育の専門性を高めていく
2	保護者支援の充実を図っていること	定期的に保護者参観・相談会の機会を設けている。 顧問心理士の相談会、療育研修会を設け、保護者に参加する機会を提供している。	職員の相談支援力・ペアレントトレーニング力の強化 (研修を受ける等) 保護者の会の発足
3	全国の事業所と繋がりのある顧問心理士から 最新の情報や知識を得ることが出来る (職員研修が充実している)	S-M社会能力検査やKIDS検査等、定期的な評価を取り入れ、 結果をもとにそれぞれのお子さんに必要な支援や目標を設定している。ほぼ毎月職員研修を行なっている。	社員だけでなく、パートを含めた職員全体での研修参加を促す。 外部研修等にも、積極的に参加する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流が少ないこと (地域の子ども・住民等との交流の機会が持っていない)	室内の音楽プログラムがメイン活動のため	年に数回イベント等を企画し他事業所との交流や外へ出ていく機会を作っていく。 (外に連れ出すための十分な支援者がいるか等) 様々なことを考慮しながら企画していく必要がある。
2	非常時や安全対策等、マニュアルは策定されているが 保護者への周知、実施が充分ではないこと	安全対策の各自マニュアルは策定されているが、 避難訓練は放課後等デイでの実施が多く、児童発達での実施が少ない。 訓練実施の様子もSNSで周知しているが、全員に届いていない。	土曜日にも避難訓練等を計画し、実施していく。 行なった際には一人一人に届くような周知を行なう。
3	外部機関や児童発達センター等との 関わりが少ないこと	関係者会議等で関わりを持つ機会はあるが 事業所主体で指導等を受ける機会はない。	研修等機会があれば積極的に参加 事業所主体で指導・助言を求めていく。